

重度訪問介護を利用して 単身生活をしている立場から

当事者：小林 利之

支援者：岩田 博行（特定非営利活動法人 生活援助為センター）

小林 利之さんプロフィール

- 幼少から17年間を旧田無市（現西東京市）で暮らし、その後調布市（グループホーム入居時の援護地）へ転居
- 平成14年 東久留米市のグッドライフ生活寮（当時、都指定重度寮。現グループホーム）に入居
- 平成16年 隣の西東京市で、制度（現在は重度訪問介護）を利用して自立生活に移行。日中は同市の生活介護「P・F・P・Cはたらきば」で活動

グループホームでの様子と 自立生活に移行する際の状況と課題

グッドライフ生活寮（2階建て一軒家に1～4名の入居者）

比較的少人数で自室もあるが、やはり集団生活の要素もあり、時折たまったストレスが自傷・他害・物の破壊といった形で爆発

一人暮らし（自立生活）への移行のアプローチ

本人とのやりとり

「一人のおうち引っ越しする」という言葉があったり、
「心配、心配」という言葉があったり、揺れる心情

新しいおうち（賃貸2階建て一軒家）でのお試し期間を経て、
正式にお引越し。思いのほかスムーズ

「最後に生活寮にバイバイしていく？」との問いに
「ヤダ、ヤダ！」と拒否して卒業してゆく。

「やっぱり自分だけのおうちの方がいいんだな」
(生活寮管理者)

制度的な課題

グループホームの支給

→ **日数** / 月

グループホームは本人の
出身地等が制度支給

重度訪問介護の支給

→ **時間数** / 月

重度訪問介護は本人の**住所地**
(引越し先)が制度支給

グループホーム⇒制度利用しての一人暮らし
の際に、重度訪問介護等が必要な支給量に足
りないことも多い。

現在の基本的な生活状況

月曜日から金曜日

- ・朝ヘルパーと「はたらきば」へ
- ・「はたらきば」で様々な日中活動
- ・ヘルパーが「はたらきば」にお迎え
- ・帰宅、自分の時間
(ヘルパーは見守り支援その他)

土曜日・日曜日

- ・お出かけ等のお楽しみ

